

戦争を考える

～憲法改正に先立って、国民が知っておくべきこと～

1 そもそも戦争ってどういうもの!?

「戦争」とは、一口でいえば「戦争計画」を実行に移すことです。

「戦争計画」とは、他国に侵攻するに際して、その相手国や自国の兵力の比較、地理的な関係性、軍事同盟の有無など、あらゆる背景を考慮に入れて画策された具体的な戦略をいいます。

通常、その「戦争計画」に従えば間違いなくその相手国に勝てると判断された場合に限り、実行に移されます。戦争が「戦争計画」なしに、行き当たりばったりで行われることや、勝てる見込みが定かでない場合に戦争を強行することは、ほとんどありません。

2 よく聞く抑止力って何!?

「抑止力」とは、戦争を思いとどまらせる力のことをいいます。

戦争が起こるためには、上述の通り「戦争計画」が必要ですが、その「戦争計画」を画策する段階で、相手国に何らかの「強力な兵器」があった場合、それだけで「戦争計画」が練りにくくなります。

最終的にその相手国の「強力な兵器」の存在によって勝利が確信できず、戦争を断念するに至ったのであれば、その「強力な兵器」が「抑止力」として働いたことになります。

逆に、その国に大した軍備がなく、強国との軍事同盟などもない場合（「抑止力」がない場合）は、その国に対して「戦争計画」が練りやすくなり、その地域に戦争が起きやすくなってしまいます。そのため、周辺地域の平和を守るためには、必ず相応の「抑止力」が必要となります。また、そのような軍事力（＝抑止力）のバランスを考慮せず、身勝手に軍備を縮小するなどして「抑止力」を低下させる行為は、戦争を自国に引き寄せるばかりか、世界全体の秩序を乱すことにも繋がるのです。

3 現在の日本国憲法は戦争の抑止力になっている!?

NO!!

まったくなんの抑止力にもなっていません。

現行憲法は、交戦権を放棄することで、むしろ抑止力を低下させています。日本は自ら軍事的な行動を制限しているため、他国から見れば「戦争計画」を練り易く、周辺諸国の秩序を乱しかねない、非常に危険な状態なのです。

戦後を通しては在日米軍という強力な抑止力によって日本の平和が守られてきたというのが事実であり、平和憲法があったおかげだなどというのは、まったく現実に即さない、まやかしです。

4 憲法九条は削除されるべき!?

YES!!

削除されるべきです。

憲法九条の何よりの弊害は、平和が憲法によって守られているという錯覚を国民に与えてしまっていることです。クドいようですが実際は米軍の軍事力（抑止力）により平和が守られています。

現在の日本国民は、この「錯覚」のせいで「軍事」への無知や無関心が当たり前になっており、日本を取巻く国際情勢を読み解く力や、最低限の国防についての知識さえも欠如させられてしまっています。これは、政治家や官僚の暴走を許す危険な状態でもあります。

日本国民の大部分は、現在、周辺諸国がどのような軍事情勢にあり、どのように周辺諸国の兵力の均衡が保たれているのかという「実情」が、現行憲法のせいで認識しにくい状態に陥っているというわけです。

そのような状態は、一刻も早く打開されるべきであり、国民は正しい知識や感覚を身につけて新憲法の草案や政治家を監視することで、現実に即した不戦の意志を示すべきです。

【日本を取巻く軍事情勢をさらに詳しく知りたい方には、こちらの書籍をお薦めします】



■軍事学入門（ちくま文庫）

別宮 暖朗 著
840円（税込）

19世紀以降の歴史を参照しながら、「開戦法規」や「作戦計画」、「動員とは何か」、「勝敗の決まり方」など素朴な疑問に答える。
(2007年刊)



■日本人が知らない軍事学の常識

兵頭 二十八 著
1,890円（税込）

普天間、尖閣、北方領土、原発、靖国から中国軍の実力まで。日本人に最も欠けている視点から真実に迫った画期的な書。
(2012年刊)

※このチラシはメディアが伝えない事実を周知する目的で、有志により配布されています。
上記書籍の著者や出版社、その他いかなる組織・団体とも無関係です。コピー・拡散を歓迎します。